

みんな



コロナ禍でも「今、できること」

約2年間に及ぶコロナ禍は、温かく豊かな地域づくりのために活動していた団体の皆さんにとって、自分たちの活動を振り返って新しい形を創り出したり、辛抱したり、あるいは苦渋の決断を迫られる日々でした。

今号では、コロナ禍でも人や地域がつながるために模索している団体をご紹介します。

地域のための活動は 不要不急の活動か



模索を続ける地域の団体

新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの生活に暗い影を落とし始めて2年が経とうとしています。常にマスクをつけること、手指の消毒などが習慣となりました。同時に「不要不急（とくに必要でないこと）」という新しい言葉が定着し、日常生活だけでなく市民活動にも制限がかけられることが多くなりました。市民活動は不要不急の活動なのでしょうか。

感染症対策と称し、活動の場が失われたり、メンバーが集まらずやむなく活動を停止した団体も複数耳にします。何が不要で何が不急なのか、これまでの自分たちの活動はコロナの影響で覆るようなことだったのだろうか、と自問自答した団体も少なくなかったと思います。一方、自粛による市民活動の停滞は、主催者だけでなく利用者にも大きな影響を及ぼしているようです。例えば、地域サロンが休止となったことにより高齢者の心理的、身体的状況の悪化が顕著になっていることなどがそれを

裏付けています。

活動するにしろ、休止を判断するにしろ、今できることは何なのか。精一杯模索している団体取材しました。（取材は9月後半に実施）

粛々と再開を待つ

「NPO法人福祉ショップこんべいとう」は、南部総合福祉センターわろうべの里で障害者雇用によるレストランを営んでいます。昨年12月から休業していますが、代表の久保治さんはレストランをいつ再開してもよいように毎週店舗の掃除を行っています。さらにメニュー開発や購入食材のリスト作成、再開の告知準備や関係各所への連絡など準備に余念がありません。

レストランを運営するにあたり大事なものは人と食材。久保さんは雇用している障害のある若者やボランティアの方々への気配りを忘れません。機会を設けては、家庭菜園で採れた野菜を持ってメンバーの自宅訪問をし、体調や困っ



こんべいとう代表の久保さん

ていることを尋ねるなど、常に気にかけています。実際に休業で能動的に体を動かすことができなくなり生活のリズムが崩れ、昼夜逆転してしまっただ人もいます。障害があっても働ける、人の役に立てる場所に身をおくことは、その人の人生をより豊かにします。久保さんはみんなにここで働くことに誇りをもってほしいと願っています。「かつてのような賑わいがあることが普通だった日々はもう戻らないかもしれませんが。ただ今できることを精一杯やるしかありませんよ」久保さんもスタッフもこんべいとうの再開の日を粛々と待っています。

連絡先

●NPO法人 福祉ショップこんべいとう
電話：080-5061-4720（久保）

変わらない場所

連絡先

- NPO 法人四街道プレーパークどんぐりの森
<https://dongurinomori.net/>
- 中高生のフリースペース「ぶらっと」
<https://www.facebook.com/yasuraginoie05>



森ノートを通じていつも子どもたちに寄り添う中島さん

長引くコロナの渦中、活動を継続するかどうかの議論はどの団体にもあったのではないだろうか。

「NPO 法人四街道プレーパークどんぐりの森」も同様でした。スタッフもそれぞれ違った意見があります。それをみんなで徹底的に話し合うことで活動を継続してきました。しかし、9月の緊急事態宣言発令では、やむなく休園に。

そんな中でも、スタッフは自分たちでできることを模索し続けました。新しい取り組みとして、森のいつもの様子を伝えるSNSの配信や子どもたちとつながるための森ノートなどを始めました。

「みんなはどうしているかなと気になっちゃって。自分はいつも通り元気だよ、って発信することでみんなにも安心してほしいんだよね」とプレーワーカーの「なかじ」こと中島良介さん。休園中と知らずに訪れた子どもたちが困らないように、スタッフは必ず森にいるようにしています。

そんな中島さんの「若者の助けになりたい」という思いがきっかけで

立ち上がった中高生の居場所「ぶらっと」。和良比区自治会の「やすらぎの家」でコロナ禍でも毎週金曜日（第一週は土曜日）にオープンしています。利用人数ではなく、本当に必要としてくれる子が来てくれることが大事と考えています。開催しないと知っていても訪ねてくる中高生がいて、スタッフはこの場を続ける必要性を痛感したといいます。

人とつながりたい若者でも、知らない場所の玄関の扉を開ける、靴を脱いで上がる、ということはとても勇気のいることです。自身も同じよ

うな経験を持つ中島さんは、玄関前に椅子を出し、暗くなるまで若者を待ち、来やすくなる気配りをしています。若者にとつて信頼できる環境があることはとても大切で、コロナ禍であってもこの場所を開けておく必要があるのです。

地域と向き合う団体にエールを

コロナ禍の先行きはまだまだ不透明ですが、地域が抱える課題はますます厳しいものになっています。

そんななか、四街道には地域の人々や仲間と向き合う団体がたくさん存在していました。

以前本誌でお伝えしたオンラインやSNSなどの新しいツールを利用した活動を始めたり、メンバー同士の結束をさらに深めることでこの事態を乗り切ろうと試みたりと、さまざまな団体が地域の思いに応えるために、今できることを模索しています。

その一方で、こんな時だからこそ、人と関わることができる居場所を一人でも求めているのであればと、支援を続ける団体もいます。

以前のような日常を取り戻すことはすぐにはできないかもしれませんが。それでも、今できる最善を尽くし地域の課題に取り組む団体の皆さんに、私たちは心からエールを送りたいと思います。



温かな灯りのともるぶらっと

ピックアップ

地域づくりサロン2021 「みんなのコト」 ～認知症のコト～



(一社) 注文をまちがえる料理店
<http://mistakenorders.com/>

認知症を自分ゴトとして考え、今できることは何なのか。これまで通り住み慣れた地域で暮らすためにはどうしたらいいのか。みんなで地域づくりセンターでは、学習会、講演会、座談会の3回のサロンを開催しました。

6月22日は、学習会として認知症の基礎知識を学びました。また当事者のご家族からの「認知症になったからといってその人が全くの別人になってしまったわけではない」という言葉で理解が深まりました。また他にも地域でどんな活動ができるかのヒントが得られるお話も聞くことができました。

7月31日は「一般社団法人 注文をまちがえる料理店」代表理事の和田行男さんをお迎えして「認知症の人をサポートするには」というテーマで講演会を行いました。

認知症を抱える人は少なからず世間とのズレが生じており、生きづらさを生み出しています。そのズレを埋めていった

取り組みが「注文をまちがえる料理店」です。取り組みの動画を見て講演を聴き、認知症の人と家族をサポートするために、まず「地域のことに関心を持つことが必要」などの感想が出されました。

10月8日は講演会の振り返りをしながら、ざっくばらんにおしゃべりする座談会を行いました。

身近な人が認知症の診断を受けたことはありますか？重症度や環境で支援に違いはある？自分が認知症になるのは怖いですか？という問いかけをみんなで考えました。

認知症は日常の延長線上に存在していることと思えるようになったらいいのでは。認知症体験会があったら参加してみたい。子どもの頃から「人は迷惑をかけた合って支えあって生きているんだよ」と伝えてることで「助けて」を気楽に言える関係づくりができればいい。など認知症へのそれぞれの向き合い方を共有しました。

お知らせ

みんなで地域づくりセンター 写真展



そごう千葉店地階そごうギャラリーにて、みんなで地域づくりセンターの写真展を開催します。

情報誌「みんなで」バックナンバーの表紙や、「ユニバーサル農業フェスタ」「みんなで災害支援ネットワーク」などのセンターの取り組みや四街道市内のかつての風景を伝える「まちの記憶」など、写真と展示で紹介いたします。この機会にぜひお立ち寄りください。

日時：12月7日（火）—12月13日（月） 最終日は16：00まで
場所：そごう千葉店地階通路（本館からジュンヌへの地階通路）

お知らせ

情報誌「みんなで」 配架協力店をご紹介します お住まいの近くで ご覧いただけます

情報誌「みんなで」は市役所玄関、第二庁舎1階、公民館などの公共施設ほか、下記の店舗に配架しています。また、自治会の回覧板でもご覧いただけます。

● 店舗一覧

icoba四街道一丁目、イトーヨーカドー、うどん屋麦（ばく）、お好み焼き・もんじゃももたろう、カフェローマ、蔵の図書館、洋食古時古時（ことこと）、日替わりシェフの店 さくらそう、セブンイレブン1丁目店、セブンイレブン駅前店、四街道徳州会病院、はるのガーデン、ひみつのおしゃれ工房、美容室アンフィニアイ、美容室フルール、ペーぐるきっちん（敬称略）

みんなで30号

表紙の写真：「自分らしく過ごせる場所を」と若者を見守るぷらっとのスタッフの皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火—金および第1・3土 9：00—17：00

（休館日は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）

電話：043（304）7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和3年12月1日 発行部数：5,000部

ホームページ

Facebook

